

広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局

LEADERS AS READER

リーダーたちの本棚 vol.15



三菱地所株式会社 取締役社長

木村恵司さん

きむらけいじ

「私にとって読書は、生きた知恵を養うための糧です。知識や情報を得れば終わりではなく、それらを自分の考えでかみ砕く。一冊の本に簡単に答えを求めず、また別の本に接して自分の考えを膨らませていく。その繰り返しが大切だと思います。」

「人間」への興味が読書の原点

私が一番本を読んだのは、大学受験に失敗した浪人時代です。高校3年になってから受験勉強を慌てて始めた私は、根の詰まり過ぎで心の余裕を失い、受験本番の前に疲れ果ててしまいました。それで浪人が決まった時、自分でも考える時間がまったくないのはまずい。読書の習慣をもつことにしました。机に向かっていれば親は安心しますし(笑)、勉強の合間のよい気分転換になりました。

同時に私が感じたのは、多くの命を犠牲にした浪人時代です。高校3年になってから受験勉強を慌てて始めた私は、根の詰まり過ぎで心の余裕を失い、受験本番の前に疲れ果ててしまいました。それで浪人が決まった時、自分でも考える時間がまったくないのはまずい。読書の習慣をもつことにしました。机に向かっていれば親は安心しますし(笑)、勉強の合間のよい気分転換になりました。

康の生涯を描いた作品です。本書では今川家に人質として送られた幼少期の苦勞や、家臣の結束を高めた心配りと行動力、そして信長、秀吉に対する慎重かつ己を曲げない家康の接し方が描かれます。例えば家康は権限委譲を大膽に行い、石川数正や酒井忠次に優秀な家臣の手腕を自由に発揮させました。また、人の話をよく聞いたのも家康の美点です。つまり家康は自分を恐れ、有益な進言もしてくれなくならないからです。

情報を糧に自分で思考する 読書とは知恵の探求です

分転換になりました。中でも印象深かったのは、五味川純平氏の「戦争と人間」です。日本の近代史を描いた小説の多くは、大望をもった政治家や将官を主人公としたものです。では庶民たち、一兵士や彼らを戦地に送った家族は戦争をどう思っていたのか。それが知りたくて題名にひかれるまま、この大長編を手にとりました。ソ連軍の圧倒的な火力の前に日本の歩兵部隊が多死傷者を出したノモンハン事件の戦場で、主人公(佐代俊介)が目撃したことにする悲惨な光景は今も忘れられません。

は、時の為政者たちが考え出した軍隊の新しい日本が戦争に巻き込まれないための手段だと評価していたからです。 『組織マネジメントに血を通わせた家康』 戦国の武将たちの生き様を描いた小説は、これまで多く読みました。彼らをマネジメント能力という視点で見た時、やはり秀でていたのは徳川家康だと思います。司馬遼太郎氏の「霸王の家」は、そんな家

外部の人材や知恵を活用する柔軟性もありました。家康は甲州鎮定の後、武田家の多くの遺臣を受け入れ、信玄が残した軍政や陣法も吸収したそうです。それらから浮かび上がるのは「人間」を大事にする非常に優れたリーダー像です。 ところでアメリカのビジネス書の多くは強力な信長的リーダーの人物伝で、家康的な地道なマネジメントを体系化した書は意外とありません。次に紹介する「熱狂する社員」(デビッド・シロタ)は、その数少ない好著で、私が考えていた経営のあ

文化を発信するビジネス街・丸の内へ

三菱地所の中核的な事業は、いままでも丸の内再構築。同社は98年から「にぎわい」交流をテーマに、東京駅前周辺を中心に再構築事業を推進。丸ビル、丸の内オアゾ、ザ・ペニンシユラ東京など、新しい街の顔が生まれ、08年から事業は第2ステージに入りました。これまでは主に商業面の機能拡大でしたが、今後は文化・芸術を発信する街としても魅力ある街づくりに取り組まれます。

一号館を同じ場所に復元し、美術館として活用する。 『三菱』号館はジョサイア・コンドルが設計した明治の名建築ですが、建物に赤レンガを使ったのは岩崎弥之助の希望があったからです。レンガは一つひとつ微妙に形が違い、それぞれがひとつひとつ個性を放ち、それがきちっと積み上げることが大切。人の和と同じというわけです。

「国際空港、観光行政、さまざまな面で日本の立ち遅れ」を懸念する。 「働く人々を含めて外国の企業が進出やすくなり、楽しめる街にする」ことが重要。例えば金鐘ビルは、スガヒツツのテーマであれば、金融教育交流センターのような施設を我々自身が設立したり、外国人のビジネスパーソンが安心して医療を受けられる環境を整えるための国際メディカルモールを将来的には必要です。また、これら都市再生を目的とした国の政策は、容積率の緩和などのデベロップメントが中心でした。今後はそこに



1947年埼玉生まれ。70年東京大学経済学部経営学科卒業。同年5月三菱地所に入社。2000年6月経営企画部長。03年4月取締役兼企画本部経営企画部長。04年6月取締役兼常務執行役員 企画管理本部副部長。04年4月専務執行役員 海外事業部副部長兼 ホテル事業部副部長兼 ロイヤルパークホテルズアンドリゾーツ取締役社長。05年6月取締役社長。

集まる事業者のそのソフト面の支援。例えば法人税をアップのライバル都市に負けない水準に引き上げ、丸の内をスーパージョージタウンとして世界に売り込める街にする(と語っています)。

「好きな言葉は、『悪魔のように細心に、天使のように大胆に』。黒澤明監督が映画作りの信条としていたという言葉です。どこか家康のマネジメント術に通じるものを感じますね」

「好きな言葉は、『悪魔のように細心に、天使のように大胆に』。黒澤明監督が映画作りの信条としていたという言葉です。どこか家康のマネジメント術に通じるものを感じますね」

「好きな言葉は、『悪魔のように細心に、天使のように大胆に』。黒澤明監督が映画作りの信条としていたという言葉です。どこか家康のマネジメント術に通じるものを感じますね」

「今私たちの行いは 次の世代に影響する」 最後の本は、五木寛之さんが昨年出版した「人間の運命」です。12歳の時に平壤で敗戦を迎えた五木さんは、死のふちに何度も立たされたが三十八歳線を越えて日本に引き揚げられました。その体験は、まだに自身の人生に大きな影響を与えていて、またそれは生涯背負っていく自分の「宿命」とも思われているようです。 その先の人生の処し方を五木さんはあえて語っていません。私は五木さんが言外に伝えているのは、宿命に決定づけられた運命というものがあるのなら、私たちが未来を次の世代につなぐための業をしっかりと積み重ねなければいかぬことだと思えます。「自分だけじゃなければ」先のことはいずれも「いい」と考える日本人が増えれば、そのような思いや振る舞いは次の子供たちが背負う業として影響するでしょう。 過去を変えることはできず、現在もまた過去に縛られます。しかしそれは、未来は現在の私たちの行いの中にあるということ(談)

「霸王の家」上・下 (新潮文庫) 司馬遼太郎著 260年もの長期政権を築き、日本人の組織メンタリティーにも多大な影響を与えた徳川家康。信長、秀吉といった異才が果敢とせなかった天下泰平を、強固に忍従を貫き続けた家康がなした原動力とは何か。その複雑な性格と、人間への並外れた洞察力を三河という風土を背景に司馬遼太郎が描く。

「熱狂する社員」(英治出版) デビッド・シロタ、ルイス・A・ミスキング、マイケル・アーウィン・メルツァー著 スカイライト コンサルティング 訳 人材の流動化が進む今日、社員の「働く喜び」は企業競争力の決定的な要素だと本書は説く。社員のモチベーション(やりがい)を形成する3要素として「公平感」「達成感」「連帯感」を挙げ、それぞれの実践的な高め方を紹介する人材マネジメント論の名著。

「人間の運命」(東京書館) 五木寛之著 著者が「運命の手を感じた日」という終戦を迎えた平壤での体験を思索の起点とし、親鸞の「歎異抄」をひもときながら、人が背負う宿命について少年時代のさまざまな記憶と共に語る。運命とは何か、運命を変えられるのか。あらがうことのできない運命という流れを前向きにとらえ、今日を生きるための書。

「人間の運命」(東京書館) 五木寛之著 著者が「運命の手を感じた日」という終戦を迎えた平壤での体験を思索の起点とし、親鸞の「歎異抄」をひもときながら、人が背負う宿命について少年時代のさまざまな記憶と共に語る。運命とは何か、運命を変えられるのか。あらがうことのできない運命という流れを前向きにとらえ、今日を生きるための書。

三笠書房 知的生きかた文庫 たった80単語! 読むだけで英語脳になる本 3刷 船津洋 ISBN978-4-8379-7862-0 ●830円

「速読が、こんなに簡単にできるの?」 1日1回「ワクワクする」習慣! 頭のいい人が 人生ハッピーに過ごせる人と、そうでない人の違いは何? 茂木健一郎

速読の教科書 「速読耳」で今までの100倍成果が上がる! 発売1か月半で たちまち18万部突破!! 医学博士 斉藤英治

病気になるない 全身のツボ 大地図帖 14刷 帯津良一 藤井直樹 ISBN978-4-8379-7812-1 ●880円

「速読耳」は、簡単! 楽しい! 「速読耳トレーニング」だから、つらい訓練はいらない! ●まとまった時間も必要ない!

「速読耳」で今までの100倍成果が上がる! 「速読耳」で今までの100倍成果が上がる!